

■小幡篤次郎 生涯、影ごとく福沢を補佐して慶応義塾の発展に力をつくし、晩年は塾の最長老として重きをなした。

おばたとくじろう

天保改革弾圧1842= 豊前国中津藩士の子として生まれ、

阿部正弘首座1845= 3歳：

尊徳報徳論・1851= 9歳：

ペリー来航・1853=11歳：

藩地にあつて漢籍を学び、

蕃書調所・・・1857=15歳：藩校進修館の句読、塾頭館務の職に任じられる。

この間、剣にも長じた。

桜田門外変・1860=18歳：

禁門の変・・・1864=22歳：辞職。弟甚三郎らとともに、\_同郷の洋学者福沢諭吉に連れられて江戸へ赴き、福沢のもとで英学を学び、  
\_頭角をあらわして、

薩長同盟・・・1866=24歳：\*福沢塾の塾頭に任じられる。  
また、幕府の開成所の助教授をつとめた。

明治維新・・・1868=26歳：開成校を辞職。

戊辰戦争終・・・1869=27歳：

廃藩置県・・・1871=29歳：\_中津市学校の創立にあたり、初代校長として英学普通教育のモデルを作る。

学問のすすめ1872=30歳：\_啓蒙期には著述家としても活躍し、「学問のすすめ」初編には、著者として福沢諭吉と名を連ね、

明治6年政変 1873=31歳：\_トックビルの「アメリカ民主政治」の出版の自由を論じた1章を、英訳本から重訳して、「上木自由論」と題して刊行した。これは出版の自由を論じた最初の単行本である。

三つの内乱・1876=34歳：文部省より招かれ、中学師範学科(のちの高等師範学校)の創立の教授監督にあたり、

西南戦争・・・1877=35歳：欧米を巡遊、

大久保暗殺・1878=36歳：

沖縄県編入・1879=37歳：東京学士会院の会員に選ばれる。

・・・・・・1880=38歳：\_交詢社の創立以来、幹事としてその運営にあたり、

明治14年政変1881=39歳：

新体詩抄・・・1882=40歳：\_【時事新報】の創立にも福沢を助けて尽力した。

国民之友始・1887=45歳：

帝国憲法発布1889=47歳：

帝国議会始・1890=48歳：\*以降、慶応義塾長、

貴族院議員にも勅選され、貨幣制度調査会委員をつとめた。

日清戦争始・1894=52歳：

白馬会・・・1896=54歳：

八幡製鉄始・1897=55歳：\_同塾副社頭に任じ、

田中正造直訴1901=59歳：\*福沢が死去してのちは、この後を襲って慶応義塾社頭に推されたが、

日露戦争終・1905=63歳：\_病没した。